

京大広報

号外

京都大学広報委員会

京都大学創立百周年記念事業について

京都大学は明治30年（1897）に創立されましたので、後3年で百周年を迎えることになりました。京都大学が創立された19世紀末は、ヨーロッパで新しい学問が澎湃と起こりつつある時期でありました。そのような新しい学問の流れを導入して京都大学は力強く成長し、多くの創造性に富んだ人材を世に送り出すとともに、独創的な研究を数多く生み出し、我が国を代表する学問の府として世界に広く知られるようになりました。この輝かしい歴史を背景として、京都大学の第二の世紀における一層の発展を期するため百周年記念事業を行うことが決定され、平成元年5月に記念事業委員会が発足しました。

この委員会において伝統ある京都大学の百周年にふさわしい様々な計画が検討されましたが、折しも我が国は戦後最長の不況に見舞われ、記念事業の決定が大幅に遅れただけでなく、内容についても再検討を余儀なくされました。そして漸くここに記念事業計画をまとめることができました。

この記念事業は大きく分けて三つの柱よりなっています。その第一は記念式典をはじめとするいくつかの記念行事であります。とくに全地球的に様々な問題に遭遇するであろう21世紀を目前に控え、京都大学の進むべき方向を模索するための国際シンポジウムを計画しています。また京都大学の苦難と栄光に充ちた百年の歴史を刊行すべく、編集が進んでいます。第二に京都大学のシンボルとも言える時計台を再生して百周年記念館とし、異分野学問領域の間のみでなく大学と社会の学術的な交流のためのインターフェイスになるような施設を設けることを計画しています。その費用は主として寄附によって賄いたいと考えていますが、一部には国費も予定しています。第三に学生の国際交流制度を設けるとともに、協定校などとの一層の交流を行い、国際化時代にふさわしい人材を育成すべく、基金を作りたいと考えています。

何分にも大変大きい事業でありますので、大学の構成員や卒業生の方々の協力なくして達成は困難であります。大学の百周年を飾り、将来の発展を期するこの記念事業を成功に導くため、今後とも御意見をお寄せ頂くとともに、御支援、御協力をお願い致します。

平成6年6月21日

京都大学総長 井村裕夫

京都大学創立百周年記念事業計画

事業計画を募金事業と国費を予定して行う事業の二本立てとし、募金目標額を60億円として事業計画を実施する。

I 募金により実施する事業

1. 記念行事

- (1) 記念式典
- (2) 記念特別講演会
- (3) 音楽会
- (4) 新「学歌」の制定
- (5) その他

2. 記念シンポジウム

3. 百年史の刊行

4. 百周年時計台記念館の建設（時計台の再生）

5. 国際交流事業の推進

（協定校等との学生交流制度の新設等）

計60億円

II 国費により実施を予定する事業

時計台の改修及び管理棟等の新築

『京都大学百年史』について

「京都ニ帝国大学ヲ置キ京都帝国大学ト称ス」。1897（明治30）年6月18日制定の勅令第209号の第1条である。この短かい条文によって、日本で2番目の大学として京都帝国大学が設立された。その時から数えて、あと3年で京都大学は創立百周年を迎えることになる。百周年に際しては、様々な事業が予定されているが、その一つとして『京都大学百年史』の刊行が計画され、すでに具体的な作業に入っている。

そこで、編集委員会では、編集作業の進行状況をお知らせし、学内での情報交換を促進するために、今後、史料を収集していくなかで判明してきた、京都大学にまつわる小史やエピソードなども『京大広報』に載せていきたいと考えている。学内外の皆様方の御協力をお願いする次第である。

1. 編集体制について

平成2年9月11日、京都大学百年史編集委員会が設置された。編集委員会は、附属図書館長を委員長とし、創立百周年記念事業委員会の委員、各部局選出の委員、編集上の観点から委嘱された専門委員から構成され、『百年史』に関する基本的計画の立案や、編集の総括を行うことになっており、現在までに3回開催されている。

また、専門委員会は編集主任を中心に9名からなり、「総説編」（後述）の執筆や史料調査など編集上の諸業務の処理にあっている。専門委員会は、すでに16回開催され研究会ももたれている。平成3年4月附属図書館4階に事務室が設置され、同年6月10日には名称が百年史編集史料室と定められた。平成5年4月からは助手も配置された。現在、同室は助手1、図書館専門員1、非常勤室員3という構成で、史料の収集、整理、「資料編」（後述）の編集、各部局間の調整、その他の諸業務を行っている。

2. 『京都大学百年史』の構成

大学史の刊行は、日本においても近年当り前のことと考えられるようになってきた。過去には、大学史はその大学の顕彰のために作られたような時期もあったが、大学史研究や高等教育史研究の水準の向上と連動する形で、個々の大学史にも、素材としての正確さはもとより歴史叙述としての風格が求められるようになってきている。さらに、大学が有史以来といわれる大変動を迎えている現在、過去の歩みを振り返り明日の進路をたしかめることは、大学人にとって避けて通れない道である。

以上のことをふまえ、『京都大学百年史』は、全体を7分冊とし（各冊約1,000頁）、「総説編」1巻、「部局史編」3巻、「資料編」3巻の構成をとり、別に写真集（冊子）も1巻刊行する予定である。

すでに決められている全体の特徴をあえてまとめると、次のようになろう。

- ① 舎密局以来の前身校時代から1997年までの約130年間の歴史を一貫して叙述する。
- ② 既刊の『京都帝国大学史』『京都大学七十年史』の続編ではなく、今日の新しい視点に立ってこれまでふれられなかったり、欠落されてきた事実をも盛り込んで叙述する。
- ③ したがって聞き取り調査等も含め、可能な限り新史料の発掘につとめる。

「総説編」は、いわば通史にあたる部分である。京都大学の歴史を総括的に扱うことになるが、日本の高等教育政策全体の中での京都大学の位置づけや、教育、大学自治の観点にも注意をはらっていきたい。また、建築や景観の変遷に1章を予定していることは大きな特徴といえよう。

「部局史編」は、各部局内の編集委員が執筆する。各部局における学術研究の発展を主要なテーマとするが、カリキュラムの変遷など教育の実際についても可能な限り言及されることになる。

「資料編」には、収集した史料や統計・一覧表・年表などを収める。制度史料以外の史料も多く収録し、それらを時代順に配列することで、各時期における京都大学の歴史像を鮮明にすることに努めたい。

1997（平成9）年6月には、第1期の刊行が予定されている。編集作業はこれから急ピッチで進むことになる。史料や情報の提供などで、内外の皆様方の御協力を重ねてお願いしたい。

京都大学百年史編集委員会委員長 朝 尾 直 弘

なお、御協力いただける際は、百年史編集史料室（内2651）まで御連絡下さい